

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 7 年 5 月 19 日
②法人・団体名	寺子屋シアン（一般社団法人 山学）		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	岐阜県本巣市		
④責任者氏名	河合 達郎	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	河合 達郎	(役職名等)	代表理事

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R06-021	⑦助成金額	30 万円	⑧申請カテゴリー	A
⑨奨学活動名	中山間地における「教育環境格差」解消に向けた学習支援活動				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	樽見鉄道神海駅 岐阜県本巣市神海				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

中山間地の小規模校区で、中学・高校生および小学生に学習の場を提供しました。過疎地で学習塾がなく、当地の親子には「補足的な学びの場へのアクセスが困難」という悩みがあります。生まれ育った場所によってぶつかる「教育環境格差」の解消を目指し、本助成期間中は103回開講しました。

本助成により、主に2つの成果がありました。1つは、学習支援員の広がりです。中山間地では講師役となりうる大学生らが周辺におらず、支援員確保の面でハードルがあります。前年度から続く本助成の支援により、講師役を積極的に募ることができました。これまでは、近隣の社会人が支援員の中心でしたが、岐阜協立大学や中部大学の学生もはるばる協力に来てくれるようになりました。もう1つの成果は、利用者の拡大です。本助成期間中は計14人・延べ575人に学習の場を提供することができました。寺子屋シアンはローカル線・樽見鉄道の旧駅舎をお借りして開いており、この鉄道を利用し、当地よりさらに山あいの地区から5人が利用してくれました。また、今年度は高校受験を迎える中3生のうち、来日して1年半ほどの子や、不登校を経験した子もいましたが、2人とも志望校に合格することができました。本助成の支援により、きめ細かい対応ができたことが大きな力になったと考えています。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	413	2.5	1033	参加者計×1回あたり平均学習時間
高校生等	58	2.5	145	参加者計×1回あたり平均学習時間
大学生等				
学習支援員等	218	3	654	参加者計×1回あたり開講時間
その他	104	2.5	260	小学生計×1回あたり平均学習時間
合 計			2092	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：中山間地における「教育環境格差」解消に向けた学習支援活動

法人・団体名：寺子屋シアン（一般社団法人山学）

作成者 氏名：河合 達郎

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

■過疎化が進む中山間地での学習支援

寺子屋シアンは、中山間地の教育環境格差の解消を目指して開く学習支援の場です。当地は岐阜県本巣市北部の山あい位置し、小学校の全校児童が 32 人（2024 年 3 月現在）という過疎が深刻化している小学校区にあります。このような地域特性上、周辺に民間の学習塾がありません。自習ができる図書館のような場所や整備された公園、駄菓子屋など、子どもたちにとって自宅と学校以外の居場所も欠いています。たまたまこの地で生まれ育つ子どもたちを少しでもサポートしたいとの思いから、2022 年 5 月に、放課後の学習支援の場として寺子屋シアンを開講しました。

開講から約 2 年間は、代表の地域おこし協力隊活動の一環としてこの場を開いてきました。2024 年 3 月をもって協力隊任期が満了となりましたが、継続の必要性を感じ、市内の同年代の仲間と一般社団法人山学（読み：やまなび）を立ち上げ、活動を続けてきました。資金面は、主に人件費を賄うために利用料を徴収していますが、条件不利地域で育つ子の支援という性質上、低廉に設定しています。その分、本助成事業を含めた民間助成金を活用させていただく形で運営をしています。

2. 実施した奨学活動の詳細

■無人駅の旧駅長室で勉強サポート、大学生支援員との進路相談も

寺子屋シアンは、平日週 3 日・17:00～20:00 に開いています。保護者の方の送迎負担を考慮し、時間内であれば自由に来て・帰ることができるスタイルにしています。場所は、地域を走るローカル線・樽見鉄道の無人駅の旧駅長室をお借りしています。ホームが目前にある旧駅長室で開いていることから、学校帰りにそのまま寄って勉強していく子や、さらに山奥にある中学校から鉄道で通ってくる子もいます。帰りも、踏切の音が聞こえるギリギリまで机に向かい、列車に飛び乗っていく子もいます。

個別型の学習スタイルで、子どもたちはそれぞれの課題に取り組みながら、学習支援員がわからない問題の解説を中心にサポートしていきます。利用者のメインとなっている中学生は、学校のワークや寺子屋で用意した教材に取り組みました。

今年度は 14 人（高校生 2 人、中学生 10 人、小学生 2 人）の利用がありました。本助成期間（2024 年 7 月～2025 年 3 月末）では計 103 回開講、延べ 575 人の支援をしました。2024 年度全体では 138 回開講、延べ 755 人となりました。



寺子屋シアンでの学習支援の様子。ダイニングテーブルを異学年が囲んでそれぞれの課題に取り組み、学習支援員がサポートする

今年度は高校受験を控えた中学3年生が5人おり、受験を直前に控えた冬場はパソコンで調べ物しながら作文を書いたり、過去問に取り組んだりする子もいました。

高校生も学校の問題集を持ち込んで、学習支援員とともにわからない問題に取り組みました。特に高校生にとっては、年代の近い大学生と話をすることが自らのキャリアを考える機会にもなった印象です。ある高校生利用者と大学生の学習支援員とが、たまたま同じ高校の先輩後輩だったというケースもありました。中山間地では、身近なロールモデルとなり得る大学生は貴重な存在で、特に高校生にとっては進路について具体的な相談ができる有意義な機会となったようです。



パソコンで調べ学習をしながら受験課題の作文に取り組んだり（左）、高校生が大学生支援員にキャリアについて相談したりする場面もあった

■「遅れた勉強のサポートを」「学習習慣身に付けたい」

利用者については、小さな地域で開く寺子屋のため、ほぼ全員が口コミで来てくれています。本巢市教育委員会が市内の子ども支援団体を対象に開いた交流会で知り合った他団体からの紹介で見学に来た親子もいました。地理的な条件不利を念頭に始めたこの寺子屋ですが、さまざまな課題に直面した親子から相談が寄せられることも目立ってきています。「学校に通えていない・通えていなかったのも、遅れてしまった勉強をサポートしてほしい」「机の前に座っていることができないので学習習慣を身に付けたい」といった相談です。民間の学習塾ではすくい上げることが難しいこうした課題に対し、サポートを手厚くしていく必要性も感じているところです。

地域との連携については、当地の街づくり団体「外山地域街づくり委員会」にご協力をいただいています。地域おこし協力隊員時代からお世話になっている団体で、外山街づくり委がこの無人駅に設置しているネット環境を活用させていただいています。無人駅の施設は樽見鉄道が所有しており、同社にも活動へのご理解とご協力をいただいています。また、当法人では 2024 年春より、地域コミュニティの活性化を目指した子ども食堂を開いており、地域の方々に寺子屋を含む山学の活動を認知いただく機会にもなっていると感じています。

学習支援員については、この寺子屋まで来てもらうということがまず大きなハードルになっています。市街地から離れた中山間地のため、講師役の担い手となりうる大学生らは近くにいません。そんな中で 2024 年 5 月、岐阜協立大学（大垣市）の菊本舞准教授のお声がけにより、先生が担当する授業「NPO コミュニティ論」の 1 コマで講義をする機会をいただきました。その授業で出会ったのを機に、1 人の大学生がはるばるこの寺子屋まで支援に通ってくれるようになりました。子どもたちと触れ合ったり、勉強を教えたりすることにやりがいを見出してくれ、決して遠くない市外から自家用車で支援にやってきました。また別のある大学生は、まだ車の免許を持っていませんが、母親に送迎してもらって支援に来てくれるようになりました。開講当初からサポートいただいている社会人の方も、引き続き仕事を終えたあとに駆け付けて来ています。中山間地の寺子屋は支援者を募るうえでも条件不利ですが、思いのある方々の支えによって運営ができていているという状況です。

寺子屋シアン・9月の開講日のお知らせ

2024 9月						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
01 開講日 17:00~20:00	02 開講日 17:00~20:00	03 開講日 17:00~20:00	04 開講日 17:00~20:00	05 開講日 17:00~20:00	06 開講日 17:00~20:00	07 開講日 17:00~20:00
08 開講日 17:00~20:00	09 開講日 17:00~20:00	10 開講日 17:00~20:00	11 開講日 17:00~20:00	12 開講日 17:00~20:00	13 開講日 17:00~20:00	14 開講日 17:00~20:00
15 開講日 17:00~20:00	16 開講日 17:00~20:00	17 開講日 17:00~20:00	18 開講日 17:00~20:00	19 開講日 17:00~20:00	20 開講日 17:00~20:00	21 開講日 17:00~20:00
22 開講日 17:00~20:00	23 開講日 17:00~20:00	24 開講日 17:00~20:00	25 開講日 17:00~20:00	26 開講日 17:00~20:00	27 開講日 17:00~20:00	28 開講日 17:00~20:00
29 開講日 17:00~20:00	30 開講日 17:00~20:00	01 開講日 17:00~20:00	02 開講日 17:00~20:00	03 開講日 17:00~20:00	04 開講日 17:00~20:00	05 開講日 17:00~20:00

<9月の予定・ご連絡事項など>
※祝日のため、16日、23日はお休みとさせていただきます。月曜日の開講日が少なくなりますので、どうぞ振り替えてお越しく下さい。

夏休みが終わる、また学校が始まります。学校の授業と自宅での学習をしっかりと進めながら、寺子屋で疑問点を解消したり、練習問題を積み重ねたりしていきましょう。
わからない問題はどんどん持ってきてください！

寺子屋シアンは 2024 年度、次の 2 団体のサポートを得て活動します。





【連絡先】寺子屋シアン 河合連郎
メール: cyan-terakoya@outlook.jp


一般社団法人 山学

利用者へ毎月配布する開講日カレンダー Supported by 椋の芽会

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

■大学生支援者が高めてくれた居場所としての存在意義

本助成により、得られた成果は主に 2 つです。1 つは、学習支援員の広がりです。前年度から続く本助成の支援により、講師役を積極的に募ることができました。特に今年度は、上記岐阜協立大学の学生が意欲的に取り組んでくれ、仲間にも声をかけて大学生の講師役を呼び込んでくれました。これまでこ

の寺子屋では社会人の方が講師役支援員の中心でしたが、大学生が子どもたちにかかわることはまた別のメリットがあると感じています。高校生にとっては、上記の通り身近なロールモデルとなってくれました。小中学生とは、休憩時間に旅行や映画、ゲームの話題で盛り上がる場面もありました。ちょっとお兄さん・お姉さんの存在が、この寺子屋の居場所としての存在意義を高めてくれていると感じます。

もう1つの成果は、利用者の拡大です。本助成期間中は延べ575人に学習の場を提供することができました。前年の助成期間中は延べ439人だったため、前年より130人以上多い子に対して支援を提供することができました。鉄道を利用し、当地よりさらに山あいの地区から5人が利用してくれたこともあって、子どもの数が急速に減っていくこの中山間地にありながら多くの子をサポートすることができました。小規模校区ではどうしても人間関係が固定化し、切磋琢磨が起きにくいということが指摘されますが、異なる学校の子が一室に集まって学ぶことで、お互いに刺激しあい、交流する場になっていると感じます。また、今年度は高校受験を迎える中3生が5人在籍し、中には来日して1年半ほどの子や、不登校を経験した子もいました。2人はダイニングテーブルに向き合って座ることも多く、お互いに励ましあって勉強する姿が見られました。2人は2月末までに、とも志望校に合格することができました。本助成の支援により、きめ細かい対応ができたことが大きな力になったと考えています。

■魅力を磨くことが継続性を高めることにつながる

一方で、課題も大きく2つあります。1つは、この支援活動の継続性です。2024年度は、行政の下支えがある地域おこし協力隊活動から卒業した形で寺子屋を開いた初年度でした。そのため、とにかくせっかく着手した中山間地の居場所を継続するという、とりわけ資金まわりのことに自分自身の神経を注ぎすぎてしまったのではないかと反省しています。本助成の支援もあって、振り返れば前年より多くの子に学びの場を届けることができましたが、さらに継続性を高めていくには、この場の魅力をもっと磨いていくことが不可欠だと感じています。

子どもの数はますます減っていきます。当地の小学校の全校児童は2024年度末時点で32人ですが、2025年度には23人になりました。小学校としても、地域としても、寺子屋シアンの活動としても、2025年度は正念場の1年になりそうです。過疎が進めば進むほど、子どもたちが少なくなれば少なくなるほど、こうした支援の場を開くことは難しくなります。そんな中でも、子どもたち視点でこの場の魅力を高め、地域の子の数は減りつつもシェアは高めていける居場所にしていきたいです。前述のように、不登校だったり勉強が苦手だったりという親子からの相談も目立ってきていることから、そうした側面での支援のあり方についても検討していきたいです。また、「寺子屋に通ってきながら伸び悩んでいる子に、何とか結果を出させてあげられないか」「大学進学やキャリアに関して、視野を広げるきっかけを与えられないか」といった観点でも打ち手を模索していきたいと考えています。

もう1つの課題は、日々の情報発信です。2024年3月より、朝日新聞岐阜県版でコラム「無人駅から」をおおよそ隔週ペースで連載してきました。こうした場以外に、SNSでの発信も強めていきたいです。2025年2月、当法人が銀行系シンクタンク・OKB総研より委託を受けている業務の一環で、県下の学習支援活動に参加した岐阜大学生7人に話を聞く機会がありました。そこで、「学習支援に興味のある学生が、どうすれば一歩踏み出して現場に入ろうと思えるか」との問いに対し、学生からは「活動の雰囲気がわからなければコンタクトしづらい」という声がありました。今後の活動を展開していくうえで、雰囲気が伝わる情報発信を採り入れていきたいと考えています。

寺子屋の魅力を磨きつつ、継続性を高めること。雰囲気が伝わる日々の情報発信を強化すること。いずれも、日々の現場対応に手いっぱいとなってしまった私自身の課題でもあります。そうした課題を解消していくには、協力者の存在が必要だと感じます。幸い、志のある大学生支援員が少しずつ集まっています。これまでは講師役として支援してもらうことが中心でしたが、今後はこうした運営上の課題に対しても協力して取り組んでいきたいと考えています。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

■「最高ですね。勉強で頭が良くなったから。あと、友だちがいる」

2024 年秋、テレビ朝日「未来につなぐエール」という番組の収録のため、東京からクルーの方が寺子屋にやってきました。12 月に放送された実際の番組では、ディレクターの方から寺子屋への感想を問われたある子が、こう答えるシーンがありました。「最高ですね。勉強で頭が良くなったから。あと、友だちがいる」

勉強する場でありながら、過疎化が進む中山間地の子どもたちにとっての居場所でありたい――。この場を開いてきた、そんな願い通りの感想を抱いている子がいることがわかり、うれしかったのと同時に救われるような思いにもなりました。費用対効果を考えれば切り捨てられるばかりの中山間地において、たった 1 人にでもこうした思いが伝わったのであれば本望だなと感じました。

とはいえ、こうした感想を抱いてくれている子ばかりではないと思います。どちらかと言えば、日々の現場で見えているのは課題ばかりです。利用する子たちがもっと力を高められ、もっと視野を広げられる居場所になる余地はまだまだあると感じます。ただこの中山間地に存在しているというだけでは、本当の意味での支援にはなりません。過疎のさらなる深刻化で運営環境は厳しさを増すことが想定されますが、支援員の方々の力を借りながら、中山間地の魅力ある居場所になっていければと思っています。